

組合支援 ウォッチ

直轄地区産業振興視察 研修会を開催

本会は、直轄地区の産業振興を目的とした視察研修を支援しています。

去る7月17日(火)、直轄次世代産業研究会と直轄自動車産業研究会のメンバーが『有機光エレクトロニクス実用化開発センター』(福岡市西区)と『三次元半導体研究センター』『社会システム実証センター』(糸島市)を訪問しました。

直轄をリードする研究会

直轄次世代産業研究会は、地域振興を目的として直轄2市2町(直方市、宮若市、鞍手町、小竹町)の企業を中心に産・学・官+金融機関で発足しました。この研究会は、直轄地域における産業の育成と地域経済の発展、とりわけ新たなビジネスモデルや次世代産業の創出を目的に活動しています。また、直轄自動車産業研究会は、産学官連携により、直轄地域における自動車関連産業の振興を目的として、平成17年12月に設立されました。両研究会は例年、次世代産業・自動車産業の研究、事業化を目的に連携して活発に活動しています。今回は、次世代の産業振興に資する先進的な研究開発、企業支援施設を訪問し、直轄地区の企業と、当該施設の連携の可能性を探りました。

最先端の研究開発拠点

まず初めに訪れた『有機光エレクトロニクス実用化開発センター』は、基礎研究を担う九州大学最先端有機光エレクトロニクス研究センター(OPERA)、応用研究を担う公益財団法人九州先端科学技術研究所(ISIT)および多くの企業等との連携を通じて実用化開発研究を担い、最先端の有機光エレクトロニクスシーズの実用化への「橋渡し」を行うことを目的としています。

参加者はまず、施設職員からそもそも有機ELとは何か、その歴史、市場の動向等を学び、福岡県内の有機光エレクトロニクスの開発拠点の説明を受けました。その後、施設内を見学し、最先

端の設備と研究現場を視察しました。

次に訪れた『三次元半導体研究センター』は、半導体関連製品の高密度化を図るために、部品内蔵基板等のプリント配線板製造技術、およびシリコン貫通電極(TSV)を有するシリコン基板製造技術から最先端レベルでの研究開発を行う拠点施設です。一方、『社会システム実証センター』は、企業が開発した製品やデバイス、サービスの評価・改良を行うため、試験研究機器や研究開発環境・設備を提供し、実証実験・評価の支援、産学官連携を支援する総合的な拠点施設です。両センターと『福岡システムLSI総合開発センター』が三位一体となって、福岡県内の先端半導体のものづくり支援拠点を形成しています。

参加者は、まず両センターの施設概要や活動内容を学び、その後、施設内に場所を移し、どのように研究開発や実証実験が行われているのか説明を受けました。

今後に向けて

高度に専門的な内容ではありましたが、最先端の研究、実用化への取組、実際に事業化された事例等を学ぶことができ、活発な意見交換も行うなど、有意義な視察となりました。スマートフォンなどの高機能化、IoTやAI、自動運転などの次世代技術の登場で需要増が見込まれる半導体市場ですが、身近に存在する高度研究開発施設をどう活用し、事業に繋げていけるか、今後に期待です。



施設の説明を受ける参加者



最先端の研究施設を見学



直轄地域を引っ張る経営者の皆さん